

# 大牟田市立駛馬南小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校では、“福祉”を中心に、地域の人とのつながりを大切にし、地域の方々の支援を受けながら、今の自分にできることを実践しようとする持続可能な社会の担い手を育成することを目標に掲げている。そして、この視点に立ち、地域の方々、特に高齢者との交流を図りながら共に支え合って生きていくことのすばらしさを感じ取り、見つけた課題に自ら取り組む体験活動を実現することを重点として取り組んでいる。

特に、中高学年では、一人暮らし高齢者宅を訪問するなどの交流を通して、その生き方に学んでいる。また、本市の高齢化の現状や認知症について調べ、感じたことや考えたことをもとに、自分たちが今、地域のためにできることは何かについて話し合い、実践し発信する活動を行っている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

<スローガン：心豊かにつながり合う南っ子の育成>

1年生：むかしのあそびにちょうせんしよう	(生活科 1月	6時間)
2年生：つたえあおう町のすてき	(生活科 1月	7時間)
3年生：駛馬南探検隊	(総合 4～7月	30時間)
エンジョイ！日本の伝統	(総合 11～12月	20時間)
4年生：諏訪川探検	(総合 4～7月	20時間)
私たちにできるボランティア I	(総合 9～10月	20時間)
5年生：一人暮らし高齢者訪問	(総合 4～9月	32時間)
6年生：認知症について知ろう	(総合 9～12月	26時間)

## 3 特徴的な活動事例

<4・5年生 総合的な学習の時間「一人暮らし高齢者宅訪問」の取組>

### (1) 目標

- 自分たちの住む地域に関心を持つとともに、そこに住む一人暮らしの高齢者の方々と交流を深め、敬う気持ちや態度を養う。
- 交流して感じたことをグループごとにまとめたり全体で発表したりして感想を交流し合う。

### (2) 実際の展開

- ①自分たちが住む校区の課題をつかむ。
  - 大牟田市や校区の高齢化率について調べ、そのことから校区の良さや課題について話し合う。
- ②GTの方の話をもとに高齢者の方の生活や思いを知るとともに、さまざまなケースにおける高齢者の方との接し方を考える。
- ③GTからのアドバイスをもとに、さまざまなケースでの高齢者の方との接し方や自分たちにできることについて考えたことを、どのように表現・実践していくか話し合う。
  - 4年生と5年生合同のグループを作り、計画・準備をする。
  - 高齢者の方へプレゼントやお手紙を準備する。
  - 訪問した時の練習をする。(会話が弾むような質問をしたらいいか、相手意識を持って考える。)
- ④「一人暮らし高齢者宅訪問」を行う。
  - 地域の民生委員さんやPTA地域委員の方の支援を受けて、グループごとに一人暮らし高齢者宅を訪問する。



⑤活動した後、高齢者の方から学んだことをもとに感想を交流し合い、自分たちがこれからできること、したいことについて話し合い、実践への意欲を持つとともに校区の中での自分たちの役割について考える。

⑥校区の地域行事に積極的に参加する中で、進んで高齢者の方と関わりを持ったり、自分たちの学習したことや考えたことを発信したりすることで、自分たちの生き方につなげる。



「認知症SOSネットワーク模擬訓練」に参加している様子



「敬老会」で受付やお茶配りをしている様子

#### 4 本年度の成果と課題

##### ○成果

- ・地域の方々、社会福祉協議会の方々、公民館の方々など、GTとして多くの方々のご理解とご協力をいただきながら、体験的な活動の充実を図ったことで、子どもたち自身が地域や高齢者の方々との結びつきを感じることができた。また、それらの体験を通して、自分が地域の一人として役に立ったことの喜びを感じるような振り返りを書いている児童が多く見られた。
- ・GT活用の際に、学習のねらいなどをGTと事前に打ち合わせる時間と場を設定したことで、GTの方々にも学習内容を深く理解していただき、子どもたちの思いや気付きを大切にしながら体験活動を行うことができた。
- ・駿馬南校区の高齢化に関する課題を自分たちの課題として捉え、学習して調べたり考えたりしたことをもとに、自分たちにできることは何か話し合い、実践しようとする態度が見られた。また、これからのまちづくりは自分たちの手で行うという決意を持ち、地域行事や地域の方々との関わりを積極的に求めていく姿が見られた。
- ・自分たちが学習したことを発表・発信する場を設定したことで、自分たちの考えや思いを伝えることの大切さと意義を感じることができた。

##### ○課題

- ・本年度の実践をもとに、来年度の学校再編に向けて、各学年の計画を見直し、今まで交流を深めてきた地域のひと・もの・ことの財産を生かして、地域とのつながりを大切に教材開発を行う必要がある。
- ・「福祉」学習においては、体験したことをもとに、自分が地域とどう関わるか、何ができるのかについて考え、自分の生き方につなげていくような単元計画を工夫していく。